

## 【認知症対応型共同生活介護用】

## 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年12月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	572307999
法人名	有限会社 恵の里
事業所名	グループホーム 恵の里
所在地	潟上市天王字棒沼台287-11 (電話) 018-878-7102
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成20年11月28日

## 【情報提供票より】(20年11月5日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年3月15日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	19人 常勤14人, 非常勤4人, 常勤換算16.3人

## (2) 建物概要

建物構造	木造り
	2階建ての ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000円	その他の経費(月額)	11,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,050円			

## (4) 利用者の概要(11月5日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3	要介護2		7	
要介護3	4	要介護4		2	
要介護5	1	要支援2		0	
年齢	平均 83.6歳	最低	68歳	最高	93歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	
---------	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地に位置する2ユニットのグループホームである。中学生の職場体験学習を受け入れたり、近所の公園の除草を率先して行ったり、防災訓練を住民と共に取り組むなど、地域へ積極的に働き掛けている。近くにはスーパーもあり、外出を兼ねて随時でかけ、利用者が自分で買い物を楽しめるように支援している。また、利用者の身体機能の維持・向上のため、研修で学んだレクリエーションや体操を活用し、日常生活にさり気なく組み込むなど、スタッフ一丸となって取り組んでいる。利用者のかかりつけ医や協力医療機関とは、健康状態や病状等について密に連絡を取り合っている。更に、ホームにおいて利用者の終末期の看取りも経験しており、その取り組みがスタッフの意識の向上、家族との信頼関係の醸成につながっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、苦情対応の具体的な内容が記載された書類や掲示物等の整備が改善課題として挙げられていた。今回の訪問調査では、各ユニットの玄関先に苦情対応の窓口や氏名等が掲げられ、重要事項説明書の添付資料にも記載されていることが確認できた。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、各ユニット毎に管理者が取りまとめ、その内容の情報は申し送りやカンファレンス等の機会を利用してスタッフと共有している。また、外部評価の結果についても情報を共有しており、更にホーム内に評価結果を掲示して自由に閲覧できるようにしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議には、利用者の家族代表や地域の住民等が参加している。会議毎の議事録も見やすく整備されており、話し合われた内容を確認することができる。行政担当者は会議には参加していないが、窓口や電話で気軽にホームの運営上の相談や連絡等ができる体制にある。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族に対しては、毎月の利用料支払いの機会を通じて、なるべくホームを訪問していただくようお願いしている。それが難しい場合は、写真を同封する等して近況を伝えるほか、預かり金の報告も併せて行っている。家族の意見等への対応については、重要事項説明書に相談者や第三者機関等を記載したり、ホーム内に掲示したり、意見箱を設置するなどの取り組みが行われている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域住民から協力を得て防災訓練を実施したり、近くの公園の除草作業を率先して行ったり、中学生の職場体験を受け入れるなど、地域との交流を持つことに積極的である。また、近くのスーパーを外出の際に利用し、近隣と顔馴染みになるよう心掛けている。

## 2. 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在掲げている理念を永続的に使うのではなく、カンファレンスや申し送り等の機会を活用して、すべてのスタッフでより良い理念を作り上げるための話し合いが進められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有と実践に向け、朝の申し送りの際に、夜勤者が号令をかけ全スタッフで理念を読み上げることを、開設当初から継続している。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の住民の協力を得て防災訓練を実施したり、近くの公園の除草作業を率先して行ったり、中学生の職場体験を受け入れたりと、地域との交流を持つことに積極的である。		
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	申し送りやカンファレンスの機会に、管理者からスタッフへの報告が行われ、改善に取り組んでいる。また、評価の結果はホーム内に掲示し、閲覧できるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーに行政担当者は加わっていないが、電話連絡や直接担当部署へ出向くことで話し合いを行っている。また、会議に参加している地域住民からの要望や情報をスタッフ間で共有している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者がホームに虐待防止についての説明に來たりしているほか、相談事があればホーム側から市の窓口に出向き、話し合いの機会を設けている。		
<b>4.理念を实践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の利用料支払い時には、なるべくホームを訪問していただくよう家族に伝えている。遠方のため困難な家族については、写真を同封する等して近況を伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談担当者や第三者機関等について、重要事項説明書に記載しているほか、ホーム内に掲示することで、ホームに対して意見を述べる機会が設けられていることを利用者及び家族に説明していた。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来職員の異動はない。今年度、初めての取り組みとしてユニット間での職員異動を行ったが、利用者への影響を考慮し1人ずつとした。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>スタッフが希望する研修への参加や資格取得については、勤務等利用者支援に影響のない範囲で配慮しており、機会が確保されている。</p>		<p>研修への参加や自己研鑽に対する職員の意識も高い。今後は、内部の新任研修・職員研修等にも有効活用できるよう、ホーム内で蓄積した介護技術や知識を、サービスの基準や介護業務手順書等、何らかの形で取りまとめていくことも期待される。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>今年の10月に地域の5つのホームが集まり、男鹿・潟上・南秋田グループホーム連絡会が設立された。経営者・管理者・介護者の3つの部会に別れ、同業者との交流の機会づくりが図られる予定である。</p>		<p>発足して間もない取り組みであるが、今後も連絡会での交流を通じて、ホームのサービスの質を向上させる取り組みを推進していくことが期待される。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居を希望する利用者・家族については、各ユニットの責任者が面談に出向いている。その内容は申し送り等の際にスタッフへ伝えられ、利用者が徐々にホームに馴染んでいけるような支援方法を検討している。</p>		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と職員が一緒に作った漬け物がホームの食卓に並んだり、利用者に茶碗を拭いてもらったりするなど、利用者のできることや意向を尊重し、お互いに支え合う関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1.一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>外出や買い物等の意向が利用者から示された場合はもちろん、利用者の思いや意向の把握が困難な場合でも、普段の生活の中でくさや表情から意向を読み取り、利用者が満足できるよう努めている。</p>		
<p><b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントに基づき、本人と家族の意向をくみとりながら、担当とスタッフが入居者の情報を共有して話し合い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の期間が明記され、定期的に見直しが行われている。また、利用者の状況に変化があった場合は、病状や日常生活動作等を確認しながら、職員や主治医等の間で情報の共有に努め、必要に応じて期間にとらわれず介護計画を見直している。</p>		
<p><b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b></p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>管理者が准看護師という事もあり、主治医との連携を確実にしている。また、家族の希望もあり、看取りをホームにて行っている。その取り組みは、結果的に職員の自信と意欲の向上につながり、家族との信頼関係も深まった。</p>		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、か かりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医、かかりつけ 歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	利用者本人や家族の意向に応じて、入居する 前からのかかりつけ医に受診できる体制を整 えている。そのほか、状況に応じて協力医療 機関とも連携を取り、適切な医療が受けられ るよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	平成20年1月に看取りを行っている。その際 には、協力医療機関や家族、スタッフの間で 連絡を密にして十分な話し合いを行い、共通 の認識を持った上で取り組んだ。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに関することは特に重要なこと と捉え、不適切な対応と思われる事柄があっ た場合は、管理者がその都度スタッフへ注意 を促している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームの日課はあるが、基本的には利用者そ れぞれの出来ることに沿って、利用者のペー スを尊重しながら過ごしている姿勢がうかが え、穏やかな雰囲気を感じられた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛りつけ、食器の配膳・下膳、茶碗拭き等、利用者個々ができる範囲で関わられるような場面を作っている。食事の際も、利用者が自分のペースで食べることができるよう配慮していた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日課の中に入浴日を設定しているが、入居者の希望に応じて随時入浴や足浴等ができる体制にある。夜間も、希望があればシャワー浴や足浴等を実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者、スタッフがお互いに支え合えるような生活を心掛けている。例えばお彼岸などの墓参りの際にはスタッフが同行するなど、入居者の生活習慣を尊重した取り組みを行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	特別な行事でなくとも、利用者から要望があればスタッフが一緒に買い物に行き、利用者が自分でお金を使う機会を持てるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は玄関や居室に鍵をかけていない。しかし、入居者から希望があった場合は、必要に応じて居室に鍵をかける等、本人の意向に沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>町内の住民の協力を得て消火・避難訓練を実施している。現在は、さらに広い地域の住民の協力が得られるように検討している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者がそれぞれの好みで使う湯のみやコップを予め計量しておき、利用者一人ひとりが一日に必要な水分量を摂取できるように支援している。</p>		
<b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>トイレでは、消臭効果のあるゴミ箱を使うなどの配慮をしている。また、最適な採光や室温を確保するために、天窓には工夫が施されていた。居間の壁には、季節を感じられるような飾りつけをするなど、家庭的な雰囲気が感じられた。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者それぞれが使い慣れた家具等を持ち込み、居室内をレイアウトしている。利用者の意向で遺族の写真を飾った部屋もあるなど、本人が居心地よく過ごせるような配慮をしている。</p>		

は、重点項目。